

ライブラリイ

とやま

書庫にある資料にふれる

～(7) 黃石公・張良之図～岸駒作

江戸時代後期に主に京都で活躍した画家岸駒は、岸派の祖で、通常「がんく」と呼ばれる。父はもと富山藩士で、のち金沢に移住した佐伯文右衛門と言われ、母が東岩瀬出身であったことから、富山生まれとする説もある。生年も定かではなく、その半生には謎が多い。

安永9（1780）年ごろ、京都に上って画家として活動し、円山応挙、松村呉春（月溪）らと並び、一世を風靡した。その画風は、中国画を手本にしつつも、狩野派や洋風画を取り入れ、霸気にあふれ写実性に優れている。岸駒は様々な画題で描いているが、「虎の岸駒」と称されるように禽獸画、花鳥画で特に名高い。有栖川宮織仁親王に仕えて、御所の障屏画を制作した。

富山県ゆかりの画家ということもあって、県内には富山市佐藤記念美術館、富山市郷土博物館をはじめ多くの作品が現存している。

富山県立図書館が所蔵する『黄石公・張良之図』は、中国漢の高祖（劉邦）の軍師として活躍した若き日の張良が、兵法の極意を授かった老人との出会いの故事を画材とした作品である。本作には、岸派を継いだ長男・岸岱の極書が付いており、富山県特別重要美術品に指定されている。昭和26年、東京の故中川清寿氏より富山県へ寄贈された。中川氏は富山市八人町出身で、大正12年に「寿泉堂」を創業し、東京でも指折りの古美術商だった。現在は、中川氏の親戚で同じく八人

町出身の久世加寿子氏が2代目を継いでいる。



第54回読みなかまのつどいが開催されました

今年度の読みなかまのつどい富山県大会は、10月27日（木）県内各地から142名の読書会・子ども読書グループ会員が集い、県立図書館で開催されました。

富山県読書会連絡協議会高木会長の開会挨拶の後(社)読書推進運動協議会より優良読書グループとして表彰された秋桜会（富山市・向田初江代表）へ表彰状が伝達されました。

引き続き、コラムニスト辻沢賢信先生より「鎖国の扉を開けた富山人－『漂民次郎吉』出版までの全過程」という演題でご講演いただきました。「富山県人に読まれるからには、史実と異なった内容を描くわけにはいかない」という想いで書かれた『漂民次郎吉』執筆や出版までのご苦労など、コラムニストの視点から、鋭くも親しみ易くお話をいただきました。午後は「アンのゆりかご」「とんび」「利休にたずねよ」「ゆうとりあ」をテキストに4つ



の合同読書会が行われました。また、子どもの読書関連分科会として、坪川祥子先生より午前中におはなし会、午後からは講演会が行われました。（詳しくは下記にて）

～本の楽しさを子どもたちに～ 子どもと本の講座開催

去る10月27日（木）と11月4日（金）の2回にわたり「子どもと本の講座」が開催されました。

子どもたちに読み聞かせ等を行っているボランティアの方や図書館員等を中心に、子どもと読書に関心のある多数の方（第1回目は114人、第2回目は83人）が参加されました。



第1回目は、福井市でいちのすけ文庫主宰しておられる坪川祥子先生に、「本のよろこびに出会って子どもが大きく育つとき」と題してご講演いただきました。

日頃「最適の本を 最適の人が 最適の時に 最適の場で」「子どもたちの成長に寄り添って、選ぶ、読む」子どもたちにおはなしを届

けることを心がけていることなど、たくさんの具体例を挙げてお話いただきました。また、午前中には読みなかまのつどい第5分科会として開催したおはなし会では2回にわたり、グリムの昔話「白雪姫」などを語っていただきました。



第2回目は、翻訳家で白百合女子大学講師の灰島かり先生に、「翻訳絵本の楽しみ方」と題してご講演いただきました。

翻訳等を通して、数多くの外国作品に接しておられる中から、実例を挙げてお話いただいたほか、先生ご自身が翻訳された本を読み聞かせしていただきました。

参加者の今後の活動に役立つ、たいへん有意義な機会となりました。

展示

「秋の夜空をみあげてみよう」

読書週間にちなみ、10月25日（火）から11月13日（日）まで、当館の閲覧室とコレクションルームにて展示「秋の夜空をみあげてみよう」を開催しました。星座や星の神話、小惑星探査機「はやぶさ」など、天文に関する児童書150冊を紹介。期間中、多くの方が足を止めて、本を手に取ってくださいました。

展示リストは、当館HPからご覧いただけます。



館内用バスケット



貸出図書の館内持ち運び用バスケットをご用意しました。

貸出希望される本をこのバスケットに入れて、カウンターまでお持ちください。

なお、このバスケットは、図書館内でご利用いただくもので、お持ち帰り用ではありません。貸出手続が終わりましたら、ご自分のかばんや袋などに、詰め替えていただきますよう、お願いします。

お気軽く おたずねください レファレンス事例集

Q 1年が365日になったのはどうしてか知りたい？（小学生の質問）

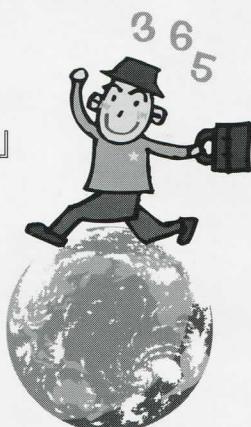
A 質問された方が、大人の方であれば暦について書かれている本を紹介します。今回は、小学生の方からの質問でしたので、児童書コーナーを探しました。

『宇宙に果てはあるの？』に「太陰暦と太陽暦」(p27)について書かれています。「実際の季節と暦をあわせるために、地球が太陽の周りを一回公転する日数を基にした暦をつくりました。これが太陽暦です。しかしこれでも実際の地球の運動とは少しずれます。そこで、太陽暦では、365日を1年と決め、4年ごとに閏日として1日を加えて366日にす

る年（閏年）をつくり、100年ごとに閏日なしの年にして、400年に一回は閏日を入れて調整します。」とあり、1年が365日になった理由がわかります。

『ものの始まり50話』の「38話 曆」(p154～157)にも同様の記載があります。

- 参考文献
- (1) 『宇宙に果てはあるの？』
(池内了／監修
かもがわ出版 2010)
 - (2) 『ものの始まり50話』
(近藤次郎／著
岩波書店 1992)



ふるさとの歴史と文学入門講座

第2回

富山の文明開化と林忠正 —「蒼龍の系譜」にちなんで

平成23年7月27日(水)

富山県民会館 701号室

講師：作家

木々 康子氏

高岡の名門医の長崎家に生まれ、富山藩士の養子になった林忠正。渡欧し、画商として浮世絵を扱



うとともに印象派絵画を日本に紹介。従兄で日本近代法学者の父と称された磯部四郎にも触れ、「富山の文明開化」について熱く御講演いただきました（参加者83名）。

第3回

前田普羅 その求道の詩魂



平成23年9月26日(月)

富山県民会館 701号室

講師：「辛夷」主宰

中坪 達哉氏

高浜虚子門下の四天王に数えられ、俳句雑誌「辛夷」(こぶし)を主宰して富山の風土について謳い上げた前田普羅。普羅の「我が俳句は俳句のためにあらず、更に高く深きものへの階段に過ぎず」という言葉を手掛かりに、普羅の句業について、読み説いていただきました（参加者74名）。

■新着読書会テキスト

1タイトルを10冊セットで貸出します。

グループでの読書会ご利用ください。

- ・河野多恵子 著 「逆事」 新潮社
- ・池井戸 潤 著 「下町ロケット」 小学館
- ・須藤 孝光 著 「白洲次郎 日本を復興させた男」 新潮社
- ・庄野 潤三 著 「逸見小学校」 新潮社
- ・松浦 寿輝 著 「不可能」 講談社
- ・梨木 香歩 著 「僕は、そして僕たちはどう生きるか」 理論社
- ・井沢 元彦 著 「小説 友情無限」 角川書店

図書館カレンダー

2011-2012 朱書の日が休館日になります。

	日	月	火	水	木	金	土	
12月						1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30	31	

	日	月	火	水	木	金	土
1月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

	日	月	火	水	木	金	土	
2月					1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29				

	日	月	火	水	木	金	土
3月					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31

休館日

毎週月曜日（祝日の場合は、翌日）

館内整理日

毎月第4木曜日（祝日の場合は、翌日）

年末年始（12月28日～1月4日）

開館時間

火～金曜日（休館日を除く。）午前9時～午後7時
土日・祝日（休館日を除く。）午前9時～午後5時

貸出

1人10冊まで、15日間

*資料のお問い合わせは

県立図書館 調査課へ

TEL (076) 436-6812

URL <http://www.lib.pref.toyama.jp/>

携帯版ホームページ

<http://www.lib.pref.toyama.jp/i/>

編刊・富山県立図書館 平成23年11月30日

TEL (076) 436-6178

FAX (076) 436-1891

〒930-0115 富山市茶屋町206-3